

信仰の歳

川口基督教会牧師 司祭 ステパノ 柳 時京

皆さんは今年でいくつになられたでしょうか。あるお医者さんは、人間の歳には5種類あるとしています。

先ず、カレンダーをめくることで取る歳です。戸籍上の歳で、これをもとに進学や選挙権などが決まるので、とても重要な歳です。

二つ目は、青少年期とか、適齢期という時に使われる社会的年齢です。特定の歳に決まっているわけではなく、社会的に、そろそろ結婚とか、もう現役からは引いて頂くとか、それぞれの年頃に伴う特徴からいう歳です。

三つ目は、最近話題になっている体の歳、身体年齢です。例えば、60代なのに身体年齢は30代とか、筋肉は20代とか、驚くほど身体年齢が若い方もいます。少しでも身体年齢が自分の歳より少ない方が望ましいです。そのためには、絶え間ない努力が要することは、言うまでもありません。

四つ目は、人が自分で感じる自覚的歳、主観的な歳です。なお、この歳をいう際に、客観性を伴わなければ、周りから変だと言われる恐れがあるので、気を付けないといけません。

五つ目の歳は、心理的な歳、精神年齢です。小学生で、もう中学生以上に物心のついている子どもは、精神年齢が高いわけです。問題は、歳をとった大人です。50代まではともかく、60歳を超えると難しくなります。むしろ高齢者の場合には、精神年齢を逆戻しにして若返った方がいいかもしれません。精神年齢は、歳の数よりは、その成熟さを指していることでしょう。

このお医者さんは、現代社会の多くの事件、事故や人間社会の問題の原因は、人間が自分の年頃にふさわしく生きていないからだと言います。その中でも、大人なのに子どものように考え、行動すること、これは先ずは個人の精神疾患ですが、そこからおびただしいほど恐ろしい問題が生じている、さらに、個人のみならず、大きな社会的な問題になっている、と分析しています。

私は、これらの五つの歳に加えて、クリスチャンには、いわゆる信仰の歳というのがあると思います。何が神様のみ旨であるのか、頭では知っているのに、それを身をもって実行することが中々できない、とすれば、信仰のカレンダー年齢は高くても、信仰年齢は幼いことになります。教会に長らく通われてずいぶん慣れていて、教会の仕組みや運営の中身、ほとんどの事について把握している。しかし、教会の全体像から見たら、それほど貢献度が高くない場合もあります。信徒の皆さんは、大抵遜って、自分はまだまだ未熟なので、という方が多いです。しかし、果たしてどうでしょうか。例えば20年間信徒生活をしたという場合、

この方の信仰年齢をそのまま 20 歳と言えるでしょうか。おそらく、信仰年齢は、先の者が後となり、後の者が先になるというイエス様の言葉通りに、必ずしも教会に通い続けた信仰歴と一致しないと思います。

福音書で、イエス様は信徒を畑や土に、そして神様の教えや福音のことを種にたとえて言われました。私は、このたとえ話で言う艱難や迫害、試練などでつまずいてしまうことは、信仰年齢が幼いからではないかと思います。世の思い煩いのせいで、富の誘惑に覆いふさがれている人もそうでしょう。信仰年齢が大人であれば、先ず自分自身が良い土質の畑として、み言葉の種を受け入れて、誠実にそれを生きていくことで、実を結ぶ弟子になります。イエス様のたとえ話で、それを受け止めておきたいと思います。誰もが、身体年齢より精神年齢が高く、成熟した人間を目指すように、私たちも、教会に通った期間にあたる信仰歴の歳にふさわしい歳を目指して歩みたい。どういう実りが与えられるかは、神様に委ねて、自分の歳に合う、大人の歳にふさわしい教会生活、信仰生活を営んで参りましょう。

(マタイによる福音書 13: 1～23)